

平成 29 年度 第 1 回西部地域医療構想調整会議 結果概要

開催日 平成 29 年 5 月 19 日

1 各委員からの意見

- 需要側の実情から医療供給がマッチしているかアプローチするのが医療構想なので、慢性期医療についても地域の実態を踏まえてサービス提供を考えるべきである。
- 療養病床の転換意向では新類型も含めた調査を継続的に行うことが必要である。
- 介護施設等を整備しても人材不足等により稼働率は上がらないのではないか。
- 救急では急性期病院の負担を減らすため、慢性期病院への搬送も検討すべきである。
- へき地医療への対応等でも、基金を活用した具体的な対応策を提案していきたい。
- 今後、マンパワーが落ちるので今までどおりの医療体制の確保は難しくなると予想される。
- 周産期では緊急の依頼と一般の産科部分では医療機関での役割分担が必要である。